



1 明北小 6 年総合『明科を好きになってもらいたい！！』 6 月中旬～

「明科を好きになってもらいたい」ということを目標に、各自、自然や文化に興味をもち、調べ学習や体験活動を取り組もうと計画を立てています。早速、校舎近くの庭で土を掘っていた子が「粘土があった！」「これ、もしかしたら土器じゃない！？」「明科やっぱりすげえ～！」と興奮気味に話していました。

また、お世話になった、地域の“えべやさん”に今年もまた料理のお願いをしたり、明科駅近くの洋菓子店にインタビューの約束の電話をしたりと、それぞれが自分の興味と関心に沿って活動をし始めています。

どんな学びに結びついていくのか楽しみです。子どもたちから感じるのは、子どもたち自身が今、明科に夢中になり、明科のことが好きになっていることがよく伝わり、微笑ましく思います。
(6 学年だよりから)

6 年生は、『明科を好きになってもらいたい！』という願いを持ち、「土」「店」「犀川」「郷土料理」「竹」「生き物」等、自分の興味・関心に基づいて、各自が追究を進めています。進める中で、調査したいことが同じであったり、似ていたりしたときは、その子どもたち同士がいっしょに活動をしています。下記は、個人追究の動機や内容についてです。

- 明科の粘土や土器について、昔、明科は瓦が有名で、粘土で作った瓦が家に使われていたと聞いたから、それが本当かを知りたい。あと、掘ったら出てくるかを知りたい。宝探しみたいで面白い。
- 地区行事でラフティングをやって、めっちゃ近いのに深さが全然違うところがあって、もっと犀川のことを知りたい。
- 犀川の流れる速さや、日によっての川の水の量を知り、犀川の危ない場所や楽しい場所を伝えたい。
- 何回か家族で行ったけど、“風ゆら”で使っている食材の入手方法や、料理の作り方や、こだわりを知りたい。
- 去年、“えべやさん”に、おやきと五平餅の作り方を教えてもらったから、明科でどんな食材を使って料理しているかや、郷土料理を知りたい。豆腐やこんにゃくの作り方も知りたい。
- 西村さんのお店は、なぜここにあるのか、どんなお客さんが入るのか、なぜ洋菓子と和菓子をどちらも作ることができるのか。それと、明科の竹から炭はできるのか。
- 去年、キャンプファイヤーで竹を使って、竹のコップを作ったけど、もっと何か作れるのではないかな。
- 明北小内にいる生物の写真を集めて発表しようと思っている。明北小は昆虫や爬虫類などもいる学校ってイメージ。この辺に、動物もいるかどうか。

2 明北小6年総合『自分で・友だちと やりたいこと追究』 7月10日(金)



犀川のことが気になり、アメンボウさんのところに話を伺いに行ったら「犀川には昔ダムがなかった。昔は犀川の水量が多かった。明科で切った木を運ぶから『木戸』という名前になった。」など、教えていただいた。近くのおばあちゃんが犀川の近くに長年住んでおり、犀川のことにすごく詳しいということを教えてもらったので、お家に行って聞いてみたい。

明北小には、土器っぽい破片や、粘土や、水源があった。駐車場を掘った。土器っぽい欠片がたくさん出てきたし、粘土の土質が出てきた。掘っていたら、でっかい石や、水源みたいなものを掘り当てた。水が出てきたときはびっくりした。明科潮古墳群の持ち主さんを調べて、連絡して掘りに行きたいです。

学校の竹を使って、刀の刀身を作ることができた。最初は、のこぎりだけで竹を加工したけど、うまくできなかったから、先生がナタを見つけてきてくれて、うまく竹を加工することができた。今度は、竹の刀の持ち手を作りたい。

自分たちだけで試しにやってみる、地域の詳しい方に聞く、講師の方を招いて体験する、ネットで調べる等々、子どもたちが考える追究の仕方は様々です。なかなか思うように進まなかったり、結果が出なかったりすることもあります。時間の最後には、更にやりたいことや、異なる追究方法が生まれてきます。自分たちの身近な地域に関わる取り組みだからこそ、幅広く追究の仕方を考えることが可能になっているのではないかと思います。

3 明北小6年総合『こんにゃくを作ろう！』 7月13日(月)



郷土料理を探っている子どもたちは、昨年度もお世話になった“えべやさん”をお招きして、こんにゃく作りに挑戦しました。こんにゃく作りは時間がかかります。子どもたちは、20分くらい、弱火にかけながら焦がさないようにずっと混ぜていましたが、結構体力が必要で疲れたようです。手作りの良さを感じる美味しいこんにゃくを味わい満足そうでした。郷土料理について、もっと調べ体験したいと、期待が膨らむ子どもたちでした。